

## 令和4年度第1回高知県環境審議会自然環境部会

日時：令和4年8月9日（火）13：30～15：30

場所：高知会館3階 「飛鳥」

出席者委員：石川委員（部会長）、佐藤委員（副部会長）、時久委員、濱田委員、細川委員、高橋委員、岩内委員、吉澤委員、岩瀬専門委員、原専門委員、三谷専門委員、森田専門委員

事務局：林業振興・環境部副部長、自然共生課長、自然共生課職員（3名）

### 1、開会

- ・ 県林業振興・環境部谷脇副部長から挨拶
- ・ 出席委員、事務局の紹介
- ・ 審議の内容は、県で定める「審議会等の会議の公開に関する指針」に基づき、ホームページで公開する。

### 2、会議記録署名委員の指名

- ・ 会議記録署名委員については、濱田委員、岩内委員が部会長から指名された。

### 3、議事

議題「生物多様性こうち戦略【改訂版】の行動計画の取組状況と成果について」について、事務局から資料1、2、3、4に基づき説明。

～説明を終えて、質疑応答～

#### 石川部会長

説明に対してご意見ご質問ありましたら、よろしくをお願いします。

岩瀬委員、事前の質問を多くいただきましたけど、今の回答に対して何かありますか。

#### 岩瀬委員

回答について、よく説明していただき、大変有り難いと思いました。

一つとても面白いなと思ったのが、カジカガエルの調査を仁淀川でしていること。これはとても面白く市民参加できるいい調査だと思うのでぜひ、市町村が管理しているような小さな河川でも、県全域でそのような調査をやったら、様々な人たちが興味を持ってくれるのではないかなと思います。それ以外は、多少まだ不満のあるところがありますが、よく回答

していただいたので十分だと思っています。

#### 石川部会長

ありがとうございました。

カジカガエルの調査は多分、谷地森さんの発案です。件数が9件ということで、情報が寄せられていないですね。まず周知徹底することが必要なのかなと感じました。

何かご意見ご質問ございませんか。

#### 岩瀬委員

一つ、協働の森と協働の海と分けて書いてほしいというのを対応していただきましたけども、協働の海の事業というのは、以前から1件もないと思うんですね。協働の海、もし、どなたか企業が参加していただけたら、恐らく水産関係だと思しますので、できれば所管を水産の方に移していただいた方が可能性はあるんじゃないかなと思います。ちょっとそれができるかどうかは分かりませんが、提案させていただけたらと思います。

#### 事務局（山内課長補佐）

持ち帰り、検討させていただきます。

#### 石川部会長

はい、よろしくをお願いします。

他にご意見ございませんでしょうか。

#### 時久委員

参考資料の生物多様性こうち戦略【改訂版】重点項目行動計画の状況についてです。2ページ目の上の端に高知県レッドデータブック改訂の記載がありますよね。その令和4年度の計画の所に、この改訂版のホームページ掲示「維持」と書いてあります。維持ということは、何かずっと掲示するのが難しいのかなと思い、心配したのですが。言葉の寄せ集めでそうなったのかもしれませんが。何か困難があったりするのかなと思ったりしました。

#### 事務局（山内課長補佐）

書き方がわかりにくく、申し訳ありませんでした。継続に修正いたします。

#### 石川部会長

時久委員からご意見出ましたので、私の方からも。

このレッドデータブック、広く県民に使っていただくというのも大事だと思いますが、実際にこの希少種を守っていくのは、実際の工事を計画されて、それに対するアセスメントが

行われて、それに保全措置を施すわけですが、その情報を得るのはコンサルタントなんですよ。その時に、コンサルタントがこのレッドデータブックだけだと、情報がピンポイントで分からないので、自然共生課に問合せが行くと思うんですよ。その辺の情報開示というのはしっかりとやっけていただいているんでしょうか。私がいろいろそのヒアリングを受けたりするのですが、積極的にそういう情報を取りに行く業者と、そうでない業者といて、その辺の周知徹底がなされていないのかなと思います。ピンポイントで情報を教えた方が、このような工事の時の保全措置にしっかりと活かされるので、受け身にならずにこういう計画が、例えば今、西バイパスをずっと越知のほうへ伸ばす工事、路線の拡張が進んでいますよね。あのような事業が県下であちこちにあると思うんですけど、そういうところで関わってる業者さんに対してしっかりと情報を提供するというのを積極的にやっていただいたほうがいいと思います。

#### **事務局（河野課長）**

ケース・バイ・ケースなのかなというところがあって、そうした工事で環境に影響するだとか、今、高速道路を安芸の方へ延伸している中で、中芸の方まで行く中で、途中で色々希少種がいるのではないかなという、細部の問合せが来ると対応はしておりますが、一般的にオープンにしまうと、一方で、例えばトサシミズサンショウウオとかでいくと、それがどこに生息しているかが知れ渡ってしまうと、それを採捕しに行く方もいたりするので、全ての皆さんに公開をするということはなかなか難しいのかなと思います。

#### **石川部会長**

いえいえ。私が訴えてるのは、そういうアセスメントに関わってる業者のみです。それをアセスメント業者が知らないと、それを無視して計画が進みますから、その辺についての情報ははっきり提示してあげたほうがいいのではないかなと思います。

#### **事務局（河野課長）**

はい。そうした場合は、自然共生課からも積極的に情報を提供するようにしたいと思います。

#### **石川部会長**

よろしくをお願いします。

他にご意見いかがでしょうか。

#### **原委員**

私の役割は開発、防災と書いてありますので、その知見から幾つかご意見申し上げたいと思います。まず行動計画について、先ほどの石川部会長のご意見に対するご回答の中で、こ

の環境学習の講師で地球温暖化をご説明される方が随分おられるイメージを持ちました。これは大変積極的なご厚意いただいているというふうに思慮しますが、是非その中で先ほどの昨今話題でもあります、地球温暖化の本質といいますか、例えば森林の効果ですとか、あるいは山地の保全とか、少し踏み込んだ、いわゆる高知としての特長を活かしたような教育を行うと、より自然に対する信頼とか、あるいは保全の効果がより得られると思います。教育は非常に重要ですので、そういったことを少し踏み込んでいただいたらどうかと思います。これはご提案です。

2点目ですが、行動計画の中で説明にはなかったんですが、先ほど私の所掌であります関係で見えていきますと、例えば、「守る」のところ、13ページで河川課が取り組んでいる環境保全がありますが、この取組の中で魚道の整備、あるいは落差工といって階段状の整備をする所の紹介はありますが、多自然型川づくりはもう少し広い意味を持ちます。この生物多様性だけではなく、環境多様性の意味を含みます。そういう意味では、いろいろな工法が提案されてますので、河川課にご紹介いただければどうかと。例えば、昔の高知豪雨の後で改良した国分川とか新川川というのは、こういう多自然型川づくりで造ってる例とありますし、それが施工されてから20年以上たってますので、そういったところの効果もフィードバックされると、いろいろな効果が分かってくるのではないかと思います。この辺り、土木部にもお声掛けをされたらどうかと思いました。

それと16ページの38番について。現在、海岸堤防の整備をしています。今の土木の知見からいきますと、津波対応型あるいは地震対応型の堤防を鋭意造られていますが、この計画、施工段階で、自然に対してかなりの配慮をしております。そういったことがこの文章だけ読むと、影響を軽減という言葉を使っていますが、もう少し具体的に踏み込んで、そういう土木側でもこういった環境に配慮した行為をされてるということを前面に出されたほうが、よいのではないのでしょうか。これは、ある種我々技術者の創意工夫でもありますので、そういったことを書き込んでいただく方が、良いのではないのでしょうか。さらに、海岸環境の維持に努めるという事項もありますが、昨今の激甚化、あるいは地球温暖化に対して潮位が上がっていく中において土木施設をどう計画するかという議論も始まっていますので、生物多様性の一環として、こういう新しい構造物をどうするか、ということも少し踏み込んだらどうかと思います。

最後は資料2のところ、CO<sub>2</sub>の削減について目標の11と12番で具体的な削減量が書かれていますが、ここで二つご質問というかご意見があります。一つはこの県内のCO<sub>2</sub>の削減に対して、県を挙げていろいろご努力をされていると推察されますが、ここで挙げられているCO<sub>2</sub>の削減量というのが一体どういう量なのかというのが分かりません。他県の取組ですとか、あるいは違う所のその取組と比較して、高知県は努力しているということが目に見える化されたほうが良いと思います。

それともう一つは県庁のCO<sub>2</sub>の削減、これは、一時期流行って色々な所でやりましたが、令和2年度までのデータを見ると、着実に下向きにグラフが下がり効果が出てると思い

ます。県庁の事務業務だけではどうしてもCO<sub>2</sub>の削減量って、あるところで頭打ちになるかと思うのですが、その辺り将来の見通しとか、削減目標があることは重要ですが、それが頭打ちになった時に現在の目標が使えなくなりますので、今後どう考えるか、今から何を考えておくべきか、お考えをお伺いしたいと思います。

#### **事務局（山内課長補佐）**

環境教育の地球温暖化にもっと踏み込んだ内容というところにつきましては、またえこらばとも検討しながらフィードバックさせていきたいと思います。

河川課の取組について、いろんないい事例があるということで、こちらについても河川課にフィードバックさせていただきたいと思います。

堤防等の整備の取組、もっと踏み込んだ紹介の仕方ということで、せっかく色々やられているということを事務局側も把握し切れておりませんでしたので、ぜひもっと反映して書いていただけるような形でお話ししたいと思います。

#### **事務局（河野課長）**

CO<sub>2</sub>の排出についてですが、資料2の目標数値でいいますと11番ですが、目標値として2030年度598万トンの排出にしようというのが、これが目標ですと、2013年度比で2030年度が47%以上削減といったところで、国のほうが46%だったと思います。国より若干上回る数字になってると思います。昨年、県のほうで脱炭素社会推進アクションプランというのを作り、それで国の数値を上回る数値でいこうということで、また、特に高知県は日照量も日本一、雨量も日本一。年により若干変わるときもありますが、そうしたことと併せて森林率も日本一ということで、バイオマスであったり太陽光発電等を活かしつつ、再生可能エネルギーを活かしつつ、CO<sub>2</sub>の削減もしていこうとしています。また県庁内の削減につきましても、一定省力化、省エネ化は進んできていますが、どうしても途中からいかない部分もありますので、国の方針にもあるように、県の庁舎等にもどんどん太陽光パネルを置いたり、あるいは公用車を電気自動車にして排出量を削減していく等、今後、強化していこうということで、取組を進め出したところでございます。

#### **石川部会長**

はい、ありがとうございます。

他にいかがでしょうか。

#### **岩内委員**

資料4の別紙の整理番号62に対する意見へのご回答ありがとうございました。同じく62について。まず地域固有の在来種について、地域の同類種と遺伝子的交雑を回避するため在来種の遺伝資源の保存等を推進しますというところですが、これを聞く前に、まず高知

県内の固有の在来種についての詳細なデータというものはあるのでしょうか。私、種子法、種とか種子とかについてすごく興味があります。種子法について、ものすごく今、危惧をしている市民団体がありまして、そこに所属しています。それは、コープ自然派とこうち生協と高知有機農業研究会と、あとNPO法人の土といのちで立ち上げた団体です。そこでまず、その固有在来種についての詳細なデータがあるのか、サンプルがあるのか。もしなければ、それを何か民間でもいいから集めなくてはいけないのではないかと。それができるのかどうか。それを守っていくというシステムを作らないといけないのではないかとというようなことが話し合われています。なので、遺伝資源の保存について回答いただいたナスと水稻とピーマン、シシトウというのがあるんですけども、その他もやっぱりいろいろ、潮江菜もそうなんでしょうし、牧野野菜もそうでしょうし、そういう種類の遺伝的なデータとか種子の保存とかというのができるのか、あるのか、可能なのかというところを少しお聞きしたいと思いました。

#### 事務局（河野課長）

申し訳ありません。農業部局が来てたら詳しいことが分かるんですが、また持ち帰って、その辺りを伝えておきます。岩内委員がおっしゃったように、県の在来種というのが、潮江菜もそうですし、田村カブとか入河内大根とか、そういう保存というのは交雑しないように、地域地域で守り継がれていくというのがありますが、その保存について、また、どのように県としても関わっていくのかとか、当然、県育成品種とかシシトウであったら土佐じしスリムとか土佐じしビューティーとかいろいろあるんですが、そういった県が独自で開発した品種は当然、農業技術センターで品種系統を維持していくというのは当然やっていると思いますが、なお農業部局に持ち帰り、回答いたします。

#### 石川部会長

はい、ありがとうございました。  
他にいかがでしょうか。

#### 時久委員

説明に対して感想めいたことも入ってしまうんですけど、一つはこの行動計画に対するご意見の回答という、資料3の13番で、害獣の捕獲頭数のことの質問に対して詳しい数字で説明していただいてありがとうございました。

実は私は、子どもたちが環境学習を進める立場にいつもいるものですから、一緒に山へ行ったりして、子どもがつぶやく声をよく聞きます。今、中学生になってる子どもなんか毎年2、3回山へ行って、ずっと木を植えて続けて、植えた木がやっと自分の身長近くまで来たくらい。なかなかブナの木なんか伸びないんですね。そんなのを見ていて、鹿ってこれはどれぐらいになったらちょうどの数になるのという言い方でよく聞かれるんですけど。バ

ランスの取れた生態系というのは、一体どれぐらいなのでしょう。子どもたちは、今、平均1平方キロにどれぐらいいて、これぐらいになったらいいよというのを、一緒に行ってくださいって大人の方に聞いて、「あっそう」みたいに思ってるんですけど、何か平均的なものがあれば、子供たちも学習しやすいです。

それから、同じく資料2の目標14に県民一人当たりの1日のごみのグラフがありますが、こんなふうにみんなが努力しても、やっぱり多かったりと、数値を追っていきけるんですけど。子どもたちには、リサイクルできるものはリサイクルへ回して、本当に廃棄物となるようなものをできるだけ少なくしていく、それがエネルギー対策になるという話をするんですが、ここら辺の数値がやっぱり今の社会の状況では、ごみになるものがたくさん出てきて、よっぽどリサイクルに気配りをしていないと減らないということがあると思います。この前、テレビを見ていたときに、シャンプーの詰め替えを買ってきて、容器へ移したときに、その後の容器を洗って干して、再生できるようにまで持っていき、いきなりポイと捨てないようにするには、家庭の主婦としたら、いろいろ苦しいんですみたいな話をした人がいたんですけど。今、例えば子どもたちはスイカを食べた後で、スイカの皮を外へ干してお日様で乾かしたら、これぐらい減るというデータで出してくるんです。日常的にできるかといえど難しいのですが。

言いたかったのは、この鹿のことについても、それからごみのことについても、やっぱり子供たちは子供たちなりに一生懸命理解しようと思ってやっているし、問題点としたことに対しては行動を起こしていますので、何か子どもたちがもうちょっと分かりやすいような目標値が欲しいです。

## 石川部会長

はい、どうもありがとうございます。

事務局どうでしょう。

## 事務局（山内課長補佐）

そうですね。今のお話で、何か、誰が聞いても分かりやすい目安みたいなものを用意しておく、環境学習にもすぐ使いやすいなと思いました。参考にさせていただきます。ありがとうございました。

## 石川部会長

前段のほうのニホンジカの適正生息密度に関して、「三嶺の森をまもるみんなの会」のなかで議論してた話をちょっと披露させていただきます。状況によって違うので。一般的には、1平方キロメートル当たり3頭か、5頭というところとちょっと多いですけど、3頭くらいかなというふうに言われてるんですが、三嶺のように一度林床植生が裸になるような形で壊滅的な被害を受けた所では、それが回復するまでは限りなくゼロに近くしないと、もう生態系そ

のものが復活しないのではないかということを議論しています。だから、できるだけ生息数をゼロに近づけると。ですから、普通では健全な生態系であれば3頭ぐらいいるのがちょうどいいのかなという。

### 岩瀬委員

どの取組かという、多分、資料1の2ページの4番ぐらいになるのかなと思うんですが、私、室戸市で毎年何回か磯の観察のようなことを地元のNPOと一緒にやっています。室戸の場合は青少年自然の家、国立の施設があって、高知市内までバスを出してくれるようなすばらしい環境があるので、それに応募する方がたくさんおられるんですが、基本的に室戸市の方一人も参加されないんですね。皆さん、南国市とか高知市とか街の方ばかりが参加します。2年3年掛けて、磯の観察で見つかった生き物の写真を撮ったり、子どもたちに絵を描いてもらったりして、図鑑のようなものを作って、自然観察のガイドテキストを作ったんですが、これを室戸市の教育委員会をお願いして、小学校に配ってほしいとお願いすると断られるんです。こういうものを配ると、市として磯に出て観察をすることを推奨したことになる。万一、事故が起こったときにどうしたらいいという話をされました。これは室戸市の話なんですけども、西の方でもそんなに変わらない状況で、子どもたちが自然の中に出て遊ばないんですね。町の子どもの方がむしろ、親の影響もあると思いますが、失ってしまった自然、自分たちの周りにない自然を求めてそういうところに出ていく。郡部の子どものほうが多分、自然を知らないのではという感じがします。教育委員会等についても、もう既に小学校なんかだと親世代がもう自然で遊んだ経験を持っていないことが多いので、自然の中でどうやって子どもたちを遊ばせていいかも分からない。非常に何か危惧される状況があって、どこかで上手くスイッチを入れないと、このままいってしまったら何も分からない集団が8割9割、ごく一部都市の中から出てくる、とても興味のある人たちが一生懸命働くみたいな、もう高知県みたいな所でさえ、そういう状況がある、ほぼできてきてしまっている。どうやってスイッチを入れるんだということ、ものすごく大事な話なんじゃないかというふうに今感じています。この中にどのように書き込むのかといったらちょっと難しいなと思うんですけども、ぜひ今日は教育の専門家の方もおられるので、その辺のことも少し議論できたらなと思って、非常に僭越ですけど、提案させていただきたいです。

### 石川部会長

岩瀬委員からご提案がありました。自然環境部会での議論の内容は非常に多岐にわたって、いろんな質問もあちこち飛びして、まとまった議論がいつもなかなかされないというのは、この会議の特徴といえば特徴なんですけど、今せっかくご提案がなされたので、今のご意見に対して何か名案とか突破口になるようなアイデアがありましたらご意見をいただきたいんですけど。いかがですか。



## 佐藤委員

今に関連して一つ。せっかくこの生物多様性こうち戦略の行動計画の中に生物多様性推進リーダーの養成ということを謳っているのですね。これを先ほど事務局からもお話がありましたとおり、市町村の環境担当の方々には案内しているということですが、農、林、水と各一次産業関係のところにも案内していこうというお話でしたけれども、先ほどの岩瀬委員のお話の中にもあったように、教育委員会とそういう教育関係の方にもぜひ、こういう生物多様性リーダー推進というのを養成講座の案内を出していただければ。やっぱり地域の教育委員会等の方々がこういうSDGsだったり生物多様性戦略だったり、そういうことをきちんと理解していただくというのが非常に重要ではないかと思います。

## 石川部会長

はい、どうもありがとうございます。地域の教育委員会への案内、どのような形で行うかというのはちょっと難しいと思うんですけど、何か事務局としてこんな方法があるかなというのがありますか。あるいは岩瀬さんのほうは腹案があるのかどうか。

## 事務局（山内課長補佐）

そうですね、教育関係の県庁の部署にも相談しながら、メールで一斉送信でご案内できるような形で、ぜひ実施したいと思っております。

## 石川部会長

はい、よろしく申し上げます。

私から。例えばこの資料2の上から3つ目のリーダー登録者数が72名にぼんと跳ね上がりましたよね。これは今まで高校生はリーダーになれないという規定だったのを、高知商業高等学校のジビエ部とか、あるいは去年のジンデ池の植村君とか、いわゆる優秀賞をもらってるような、そういう優れた取組をやっているの、高校生でもいいじゃないかということで規定をちょっと緩くしてもらった。それで20名、ぽっと増えたんですね。こういういわゆる大人だけじゃなく、教育委員会とか教育関係に携わってる者だけではなくて、非常にまだ若い高校生なり中学生なり、一生懸命取り組んでいる子どもたちがたくさんいます。そういう人たちをうまく抱き込むというのも必要なのかなというふうに思ってます。

それで、一つには草の根を広げるという意味で、最初、生物多様性の認知度、資料2の一番上、20%だったんですね。これ始まったときに、これは知る・広めるということが一番重要じゃないか。目標は四つあって、知る・広める、つなげる、守る、活かすという、この四つのなかから知る・広めるというのをまず最初にやらないといけないのではということで、この多様性の戦略を策定したメンバーの岩瀬さんとか、佐藤さんとか、私とかで高知生物多様性ネットワークという任意団体を作り、岩瀬さんを中心に3年間くらい続けて、色々な取組をやっている人たちが、ポスターとかいろんな展示をする催しをやったんですね。

最初は高知大学でやって、2回目は須崎、3回目は室戸でやったんです。それで、そのイベントに集まった人たちは、ほとんどリーダーになってるんですけども、集まって交流会をやったんですね。それが非常に好評で、我々としてもすごく手応えを感じてリーダーも増えていったという。そういう実績もあるので、手応えを感じたんですね。それで今日この説明をしていただいた資料の中で、先ほど副部長さんも紹介していただきましたけども、ふるさとのいのちをつなぐ生物多様性こうちプラン大賞を今年はポスターセッションで交流会も兼ねてやっていただくことになったのは、そういうベースが実はあったんです。提案したバックグラウンドにそういう過去の実績があったんですね。うまくいった成功体験というか、我々の。これを単に表彰して優れた取組を持ち上げるだけじゃなくて、横のつながりをきっちり保ってそれを広げていく、その輪を広げていくというのが一番大事なので、そこをこの生物多様性こうちプラン大賞、これも利用できるんじゃないかと。計画をちょっと小耳に挟んだんですけど、発表する時間がちょっと短いんですね。交流を増やすのであれば、交流を兼ねてそういう時間を取るのであれば、もう少し長くポスターセッションの時間をいただきたい。

将来的には参加してくる団体、活動団体をどうにか、いろいろな、教育委員会の人たちにも来てもらえるような、そういう取組にしていきたいなと思うんですね。コロナでこのところ、最初はなかなかうまくいかなかったんですけども、ここへ来てだんだん行動制限がなくなってきましたので、その辺はいけるんじゃないかなと思います。その辺の細かいアイデア出しは事務局と色々なプランを含めてやっていただきたいなと思います。

岩瀬さん、これもう少し何か意見を伺いたいですか。

#### **岩瀬委員**

教育委員会、あるいは学校の先生が参加できるようなイベントというのは、いいなと思います。

#### **岩内委員**

私は山に住んでいて、子供が二人おります。やはり山に住んだ途端に外で遊ぶことは少なくなりました。ただ、虫には慣れました。虫とか動物にはがんがん慣れていったのでそれはちょっと良かったかなと思います。それで先ほど石川先生がおっしゃった、こうちプラン大賞の良いところというのは、地域コミュニティーがすごく関わってくるところ。コミュニティーで活動しているというのがすごい見えてきて、コミュニティーだけじゃないですけども、何かそういう地域の動きというか、地域の活動というのがすごい評価されるというか、そういうのが見える賞だったなと私自身は思っていて、それはものすごく良いことだなと思っています。

同時に居住地域もそうでしたけど、PTAとか学校も絡んでいるところもありましたよね。なのでやっぱり学校の絡み方、うちも実は行川学園なんで、私、PTA会長をさせてい

ただいてるんで、絡みたいなど思ったりとかしたんですけど。でも地域でそういう、行川学園なんかでは、すごく畑作ったりとか、清掃とか、自然に触れるチャンスを学校で作ってもらってるってところもやっぱりあるんです。なので、そういうふうにも子どもたちがいろんな方面、多方面から自然に触れていく、環境に触れていくというところを可視化できたらという、漠然とした感想なんですけど。

もう一つ、岩瀬先生のお話を聞いて思ったのが、都会から志を持った人たちだけが農業とか環境活動に参加してくるという、確かにその流れというのはすごくあって、どんどん人の流れが昔とは違ってる状態。地元では、環境とか農業に関わる人たちはどんどん高齢化して中間層が抜けていく。その中間層を埋めていくのが新規でやってきた、都会で疲れ果てたかどうかは分かんないけど、志を持ってる人たちという流れが今本当にあるなと思っていて、それにどう対応するか。こうちプラン大賞もそういう流れにはすごい合ってると思うんですよね。なので子どもたちの面と若い人たちの流れの面というのをうまく活用できたらいいんじゃないかなと思いました。

## 石川部会長

はい、どうもありがとうございます。じゃあこの件については一区切りをつけるということで。事務局のほうでもいろいろアイデアを出していただいて、よろしく、検討お願いします。

私のほうからもう一点よろしいでしょうか。この資料3の一番最後で、少し環境省絡みの進んでいる計画のことを質問させていただいたんですが、先ほど資料でのご説明にもあったように、協議会を越知町、仁淀川町、いの町と大川村で立ち上げるというような。それに関してですけども、地域協議会が既に石鎚山系で立ち上がってますよね。愛媛県の西条市と久万高原町、それから高知県のいの町と大川村、ここで石鎚山系の連携事業協議会というのが立ち上がってますね。高知県では参加してるのは産業振興部の計画推進課がワーキンググループに参加してるんですけども、愛媛県では自然保護課なんかも参加していることがありました。何回かワーキング、委員会をやってるようです。そこのメンバーにもちょっと声を掛けてるんですよね、鹿の捕獲、情報共有と連携捕獲へ参加してくれないかということ。その辺の、協議会があちこち入り乱れるのは余り良くないのかなと思うので、そこと少しすり合わせをしていただきたいなと思うのですが。当然、高知県の中だけでなく、愛媛県とも密に連携を取らないといけませんよね。ですので、もう既に平成28年から始まってますから、かなりその辺の連携は密にやっています。観光関係と交通関係と山とかレクリエーションですね。そういうところがメンバーに入っているいろいろな協議をしてるようです。もう結構実績も上がってきているようなんです。声を掛けてもらったところ、シカの捕獲に関してかなり乗り気で、感触はいいということなので、ぜひそこと連携を、というか連絡を取っていただきたいというふうに思います。以上です。

ついでに言いますと、ここにカモシカの分布がぐんぐん西のほうへ広がってると言って

ましたけれども、愛媛県の赤石山系にもいるみたいですね。こないだ愛媛県の自然保護課と一緒に東赤石山のシカ害でひどくなってきた所に柵を張るという、どこに張ったらいいかちょっと意見を聞かせてほしいというので現場まで行ったんですけども、愛媛県の方も関係者も沢山来ていて、最近カモシカが見られるようになったと聞きました。ですからシカだけでなく、こういう希少な野生動物に関する情報についても愛媛県と密に連絡を取っておかないといけないので。その辺も含めて考えていただきたいなというふうに思います。

まだあと15分くらいあります。ぜひ、この際、ご意見をお願いします

生物多様性のこの自然環境部会、この議論、最初は非常に多岐にわたっていて、これはどういう議論をしてるんだらうというような、委員の方たちもちょっと戸惑う会でしたが、最近ではSDGsの中で生物多様性の重要性とか、あるいはこの戦略に関して、いわゆる自然、生物圏の保全だけではなく、いわゆる社会とか経済、SDGsのゴールになってるようなものも、特に最後の「活かす」ということですね。そこで入ってきてるのでSDGsなりに結構多様な内容になってきてるわけですけど。そういうところも、「活かす」に関してまだ今日は余りご意見がないようですけども、その辺に関してはいかがでしょうか。

#### 岩内委員

「活かす」に続くかどうか分かりませんが、私、個人的に今、みどりの食料システム戦略が気になっていて、多分こことも連携してくると思うんですよ。なので多分、次の改訂とかでがっつき関わってくるのかなと思うんですけど、みどりの食料システムの有機農法25%でしたっけ、あれを実現するためには、本当に環境についての知識というのをすごく、みんなが持たないと無理だなというふうに思っていて、そのための何か新しいアプローチみたいなものを打ち出さないといけないんじゃないかなという気がしております。なので、そういうアプローチとして何か皆さんにどんなことをしていったらいいのかとか、今じゃなくてもかまわないので、お聞きしたいなと思いました。

#### 石川部会長

はい、いかがでしょうか。

事務局のほうから何かございますか。

#### 事務局（河野課長）

みどりの食料システム自体も農林水全部に関わってきているものでして、幅広く環境に配慮してというようなこと、ひいては生物多様性にも繋がってくる取組ですので、私どもも、昨年国が出したものを参考にしながら取組も進めていけたらと考えております。

#### 石川部会長

はい。次に活かすというご意見がありましたけども、生物多様性こうち戦略は来年度改訂

しなきゃいけませんね。その辺の計画というか、予定というのは、何か決まってるところありますか。今の時点では披露はできないですかね。

### 事務局（河野課長）

そうですね。まだ今の時点ではどういう方向でというのはお示しできませんが、先ほども出てましたように、色々国からも新しい基軸が出てきてまして、先ほど岩内委員からも出ました、みどりの食料システムであれば有機農業、化学肥料を何%減らすとか、色々出てきますので。あとは炭を土壌改良剤として使うとか、炭素を固定化してとか色々出てきてますので、そうした新しい流れも取り入れながら、今後、多様性をどうしていくのか、多様性にも取り入れていくのかを検討していきたいと思っております。

### 石川部会長

はい、どうもありがとうございます。

まだもう少し大丈夫なんですけども、何かご意見、述べられてない委員の方、いかがでしょうか。よろしいですか。説明も手際よくやっていただいて、よく理解していただけるようになったので良かったのかなと思います。的外れな質問も意見も余り出なくなると、皆さん理解が進んでいるのかなという気がしますけど。

### 岩瀬委員

質問でもないし意見でもないんですけども、今、ローカル SDGs 四国という、環境省が中心になって、金融庁とかいろいろ入って、四国の中で持続可能な、最終的には産業を興していく、生物多様性から得られる恵みをきちんと持続可能な形で活かすというプロジェクトなんです。それを回していく仕組みづくりをするための補助金事業というのを環境省が出していて、それに私、地元の大月町でやってます NPO 法人で応募して、大月町の森林資源をもっと持続可能な形で、もう少ししっかり使っていくような、それで、ものすごくいいところをたくさん取ってこうという。移住者がどんどん入ってきているんだけど移住者に仕事がない。それを林業を中心として、林業じゃなくて山業、いわゆる木を伐って飯を食うというのは現実的ではないんですけども、もうそれだけではちょっと飯は食えない。いわゆる森林組合のような大規模なことをやれば飯が食えることは確かなんですけども、個人でちょこちょこ伐ったからといって、それで飯は食えないんで。伐った木の中でいい材はもちろん材として出す。良くない材は、例えば薪にして出す。広葉樹があるところも伐って、じゃあそれは炭にして出す。きれいな葉っぱ、売れる葉っぱがあるなら葉っぱを出す。乾かしてお茶にするならお茶にして出すみたいな。使い尽くすような形で、多分昔の人たちはそうやって山を使っていたのを、もう一度取り戻そうみたいなことを少し今やりかけています。恐らくこの生物多様性ということをまるで考えないでやっていくと、また禿げ山になってしまう恐れもある話なので、きちっとやはり、誰かが「ここまでよ」というような、あるいは、

「この山は残しておいてこっちは使おうね」みたいな、そういう話をしなければならないと思うんですけども、そういう仕組みづくりというのを今地元でぼちぼち始めています。それは今回は環境省のお金でやっていってまますけども、県の豊かな環境づくり補助金等いろいろありますので、うまく広がっていったらいいなど。そのためには成功事例を一つ作らないと誰も真似してくれないので、何とか成功させていこうと思っております。そういうのが多分次の段階には、今までみたいに生物多様性守るために、人にもっと知ってもらわないといけないとか、あるいは教育をしないとダメとか、どっちかという、知ってもらうというところに重点が置かれていたのが、それが自分たちの暮らしを良くしていくという方向に多分軸足を少し動かしていかなきゃいけないんじゃないかなと思って、今いろんなことをやっています。

他の、ぜひ皆さんからもいろいろ、来年度、知恵をたくさんいただいて、私どもの取組にも活かしていきたいですし、県全体にもうまく回っていけるような形ができればいいなど思っていますので、よろしくお願いいたします。

#### **事務局（谷脇副部長）**

山に関していえば、商いのところは地域で頑張るとして、そうでない、ベースになるような、先ほどの山に関するいろんな活動につきましては、今、やはり市町村を中心に森林環境譲与税もありますので。一定、直接その商いには使えないにしても、その背景で、いろんな人づくりであったりとか、使い方というのはあるかと思っておりますので、そうした面におきましては県としても市町村とちゃんとしっかりと話し合いをしながら、これから進めていきたいなと思います。

#### **石川部会長**

はい、どうもありがとうございます。

他に、いかがですか。よろしいでしょうか。大体意見が出尽くしたようですので、この辺で質疑応答を終わりたいと思います。

#### **4、閉会**